

令和 8 年 2 月 16 日

出雲市議会議長 様

会 派 名

代表者氏名 長島 和孝

(署名又は記名押印)

視察研修について (届)

このことについて、下記により実施いたしますので、関係書類を添えて届けます。

1. 日 程	令和 8 年 3 月 29 日～31 日 (3 日間)	
2. 視察研修先 及び視察研修 目的	3 月 2 9 日 3 月 3 0 日～3 1 日 議員セミナー参加 「財政のプロから学 ぶ基礎研修」	移動日 (1) 研修名「財政のプロから学ぶ基礎研修」 (2) 主催者 地方議員研究会 (3) 場所 京都 JA ビル (4) 講師 今村寛氏 (5) 研修内容 < 3 0 日 > 財政の基礎、歳入の基礎 < 3 1 日 > 歳出の基礎、財政危機の基礎
3. 参加者	長島和孝	
4. 添付書類	行程表 (別紙「行程表」のとおり)	



長島和孝 研修 行程表

日程 令和8年3月29日～31日

行程	時間		備考
----	----	--	----

3月29日（日）

出雲市駅発	6:30		
京都駅着	10:59		

3月30日（月）

京都JABIL	10:00～12:30	「財政のプロから学ぶ基礎研修」 財政の基礎	
	13:30～16:00	歳入の基礎	

3月31日（火）

京都JABIL	10:00～12:30	「財政のプロから学ぶ基礎研修」 歳出の基礎	
	13:30～16:00	財政危機の基礎	
京都駅発	17:02		
出雲市駅着	21:24		

宿泊ホテル 2連泊にて
京都ユニバーサルホテル烏丸

令和 8 年 3 月 31 日

出雲市議会議長 様

会 派 名 _____

代表者氏名 _____ 長島 和孝 _____

(署名又は記名押印)

視察研修について（報告）

このことについて、下記により実施いたしましたので、関係書類を添えて報告します。

1. 日 程	令和 8 年 3 月 29 日から 31 日（3 日間）	
2. 視察研修先 及び視察研修 目的	3 月 2 9 日 3 月 3 0 日 (1) 研修先 (2) 研修内容 3 月 3 1 日 (1) 研修先 (2) 研修内容	移動日 京都 JA ビル 財政の基礎、歳入の基礎 京都 JA ビル 歳出の基礎、財政危機の基礎
3. 参加者	長島和孝	
4. 添 付 書 類	1. 行程表 別紙「行程表」のとおり 2. 報告書 以下のとおり	



□ 3 月 3 0 日

内容：財政の基礎

講師：今村寛先生

(Office aNueNue 代表 元福岡市財政局財政調整課長)

時間：10:00～12:30

講義より抜粋：



- 収入の範囲に支出を抑える。
- 公債費、扶助費、人件費は義務的経費。借金ができるのは「社会資本整備」目的のみ。
- 一般財源はあまり増減しない。
- 市債の多くは30年返済。借りる額を減らしてもその30分の1しか返済額が減らない。
- 第4の義務的経費が「公共資産の維持管理経費」
- 経常収支（毎年かかるお金）比率が高いと、新たな課題に対応する「政策的経費」の割合が小さくなる。
- 既存の事業をやめる決定をしない限りコストが増加。新たな政策に投じるお金がない
＝「財政が厳しい」
- とはいえ「政策的経費」は必要。「基本計画」に描いた市民との約束を果たすため。
- ただし事業の削減をすればいいというものではない。やりたいことは何か、何を残すか考えなくてはならない。
- スクラップ&ビルドではなく、ビルド&スクラップ。やるべきことを先に「ビルド」。それより優先順位が低いものを「スクラップ」。
- 財政危機を避けるためには、職員-首長-議会-市民の間で現状認識の共有が必要。
- 部門ごとにあらかじめ財源を配分する「枠予算」のすすめ。
- 職員が市民にわかる言葉で語らなければいけない。対話をする事。
- 議会は劇場。市民に伝えたいことを演じる。
- 議員は市民と職員をつなぐのが仕事。

内容：歳入の基礎

講師：今村寛先生

時間：13:30～16:00

講義より抜粋：



- 「入るを量りて出ずるを為す」。財政部は固い予想をする。
- 足りないときにできるのは「基金取り崩し」と「繰り上げ充用」だけ。
- 会計年度独立の原則。歳入 $\geq$ 歳出
- 社会資本整備以外の領域での借金（市債発行）はできない。
- 地方交付税は標準的な行政サービスのための、国による財源保障。

普通地方交付税＝（基準財政需要額）－（基準財政収入額※）

※地方税収見込額の75%

使途は自治体の自由裁量。

- 財政力指数＝収入/支出。収入があるかどうかの指標。財政の健全性とは関係ない。
- ふるさと納税は財源としては頼りない。職員の商売の訓練と考える。
- 自治体の目的は収益ではなく市民福祉向上。

□3月31日

内容：歳出の基礎

講師：今村寛先生

時間：10:00～12:30

講義より抜粋：



- 予算査定のチェックポイントは、
 - ①Action「それってほんとにうまくいく？」
 - ②Vision「どんなまちを目指してる？」
 - ③Flame 会計年度独立の原則、財政民主主義
- 目の前にあるのは課題か現象か。本当の課題はどこにあるか。
- 中間目標を設定せよ。
- 誰がどういう状態になれば解決したといえる？
- ×「推進する」「目指す」・・・政策は、社会を「ありたい姿」に変化させる具体的行動。
- 行政評価の本当の目的はコミュニケーション。
- バラマキのどこが悪い。実は役所のやっていることのほとんどが「バラマキ」。
- 事後確認のためには事前に目標を設定すること。
- 総合計画に立ち返る
- 未来の市民はそれを求めているのか？未来を考えて予算を組む。
- 未来の市民が検証できるように、決定に至る過程を文書に残す。

内容：財政危機の基礎

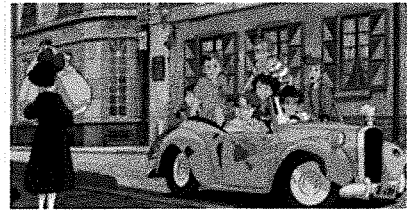
講師：今村寛先生

時間：13:30～16:00

講義より抜粋：

- 一律削減、削減ノルマは、やってはいけない行革。何を残すかという議論が必要。
- 経常収支比率が高くても、毎年少しずつ事業を入れ替えればよい。
- 他自治体と比べるのは無意味。比べるなら自らの過去と比べる。経常収支比率悪化の原因を調べる。
- 大型公共事業を止めても財源は出てこない。
- 財政課は雇われ番頭。経営者は市民。
- 夕張市の財政破綻の例。放漫経営のツケは将来の市民が背負う。
- 危機共有のため、行政による情報発信と、市民の読み解く力が必要。
- 議員からの質問は、庁内での議論のきっかけになる。
- 市長の思い付きに対抗するには「基本計画のどこに書いてありますか？」

経営者は誰だ



地方財政研究会 知っておきたい財政健全化の基礎
Office aNueNue 今村寛(元・福岡市職員)

全体を通しての所感：

- 基本計画の大切さを改めて確認した。予算案に疑問を持った時は、基本計画を基に質問を組み立てよう。
- ビルド&スクラップ、という考えは斬新に感じた。今必要な事業を考えることが何より優先される。既存の事業を見直すことは、使っていないアプリのサブスクリプションを解約することに似ている。そのようにして事業の適正化を図りたい。
- 私は議員として「議会は劇場」と思っているが、先生も全く同じことを言われたので驚いた。議員からの質問が庁内の議論の役に立っていることもわかった。これからも遠慮なくたくさん質問しよう。
- 先生は自治体職員と市民との対話を強調しておられたが、私は議員こそ市民と対話しなければならないと思う。選挙で選ばれたのだから。市民との対話の機会を増やすべく、私は来月から市政報告会の機会を増やすことに決めた。

以上

長島和孝 研修 行程表

日程 令和8年3月29日～31日			
行程	時間		備考
3月29日（日）			
出雲市駅発	6:30		
京都駅着	10:59		
3月30日（月）			
京都JAビル	10:00～12:30	「財政のプロから学ぶ基礎研修」 財政の基礎	
	13:30～16:00	歳入の基礎	
3月31日（火）			
京都JAビル	10:00～12:30	「財政のプロから学ぶ基礎研修」 歳出の基礎	
	13:30～16:00	財政危機の基礎	
京都駅発	17:02		
出雲市駅着	21:24		
宿泊ホテル 2連泊にて 京都ユニバーサルホテル烏丸			